

内浦公民館だより

令和4年5月13日発行

Artfull うちうら

(2022) <vol.104>

[発行]
内浦公民館
〒919-2351
高浜町山中 104-4-2
TEL.0770-76-2007
FAX.0770-76-2008
E-mail
Uchiura_c.c.@town.takahama.fukui.jp

内浦公民館講座

春のハイキング ～碎導山城跡めぐり～

*QRコード
広報誌をカラーで
ご覧いただけます。



令和4年4月17日(日) 8:30~12:30
春のハイキングを開催しました。参加者は14名。佐伎治神社を大きく囲むようにして登り口と降り口があります。碎導山城跡の見学ルートが整備されていて、敵の侵入を防ぐための色々な工夫を見ながら登り進んで行きました。途中、ロープを使って登り降りする斜面にも半数の方がチャレンジしました。山城の仕掛けに関心しながら、愛宕神社に到着。青葉山から和田まで一望出来て、素敵な景色を見る事が出来ました。妙見山ではこの日祭礼が行われていて、特別にお堂の中を見せていただきました。碎導山を下りた後は佐伎治神社の宮司さんに七年祭りの神輿を見せていただき、その後高浜町郷土資料館内を見学して、ハイキングは終了しました。天気にも恵まれ特別に色々見る事が出来て、盛沢山なハイキングでした。



●開館時間 午前8時30分~午後10時 ●利用時間 午前9時~午後9時30分
※夜間利用が無い場合は午後5時00分で閉館いたします。

★ 内浦の魅力再発見Ⅱ ★

【音海編】

～今回は、【音海編】です。音海地区の婦人会総会にお邪魔しました～

婦人会の会員は現在8名です。総会では4年度の事業計画予算・会則等について議事進行されていました。コロナ禍で今年度も見送り事業がある中、漁協会館の清掃は定期的に行っておられます。漁協会館は他団体も使用していて、清掃は婦人会が担当で人手がいる時は老人会に手伝ってもらおうとのことでした。また、盆踊りに向けての盆踊りの練習を老人会と合同でしたり、桜の花見会や体育祭クリスマス会では各団体が役割を持ち開催しておられるそうです。「自治会」「老人会」「婦人会」「青壮年グループ」の団体がそれぞれ協力して皆さんで音海地区を運営されているんですね。



(総会後にはお話をお聞きしました。)

音海のグループ^{ライン}LINEがあって家族の誰かが仲間になっていて、連絡をラインで流して地区の皆で共有しているとのこと。「放送だと聞けない時もあるけれど、ラインは既読もわかるしみんなに必ず伝わる。」なるほど、確実に皆さんに届きますよね。また、音海がいいと思うことで、「学校があった時は、体育祭は地区も一緒にそれぞれ出番もありみんなで盛り上がったな。」などの話にもなりました。普段していることが、地元ならではのことを考えたり行動したりすることに繋がっているのですね。会員数が少なくなると事業が出来なくなったり会の存続自体も危うくなりますが、婦人会では「ほそぼそでも続けるということが大事」と先輩からアドバイスをもらわれたそうです。ただいま会員募集中とのことでした。皆さん積極的に考えておられてこれからも楽しみですね。今後、音海区内はもちろん内浦の他地区や全体とも交流や連帯ができていくといいなと思います。婦人会の皆さんありがとうございました。

《地域ニュース》

内浦公民館職員も、音海の遊歩道を歩いてきました。



4月10日の和田公民館主催の「音海の大断崖ツアー」に参加しました。

音海区の内谷さんの案内で、灯台やそこから見える景色の説明をしていただきました。灯台に続く遊歩道の桜は内谷さんが青年団の時に3人ほどで植えられたとのこと。遊歩道は雪害で倒木がたくさんあったのを音海の老人会の方々が清掃されていて、快適に気持ちよく満開の桜の下を歩き参加者の皆さんも大満足のツアーでした。大断崖は260mで日本一だそうです。まだ行かれたことのない方は是非、高浜町が誇る風景の1つである、日本一の絶壁大断崖と素晴らしい景色をご覧ください。



今回は養老孟司著『子供が心配』です。

子供たちの遊び場が消失していき、体を使って外で遊ぶ姿を見なくなった。自殺する子どもも後を絶たない、子どもは本来「自然」に近い存在だと論じる養老さんが、現代の子どもを心配し、4人の識者と語り合います。

高橋孝雄氏(小児科医) 私はかねてより「親は自分の願望を子に託すな」と訴えています。インターネットで育児法を追いかける親を心配する。「正しい育児をすれば、社会が求める正しい大人になる」との幻想を抱かない。

宮口幸治氏(児童精神科医) 医療少年院で非行少年の認知能力の低さに愕然とし、認知能力の向上に努める。子どもの問題行動に気づいたとき、大切なのは「子どもの話をちゃんと聞く」ことです。「あなたにも問題があるんじゃないの?」みたいなことを言ったら一発アウトです。子どもは自分の話を否定されたことで、大人が思っている以上に傷つきます。

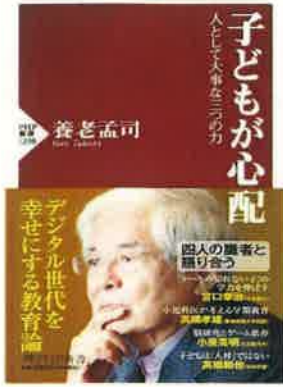
小泉英明氏(脳研究者) 幸せのポイントは「共感」能力、言い換えれば「温かい心」を育むことにある、それこそ子どもたちが幸せになるための教育の最終目標である。他者に共感し、他者の幸せに尽くすことが、自分の幸せにつながる。

高橋和也氏(自由学園学園長) 結果が自分に返ってくることばかり求めていると、自分の利益になることだけをしようという発想になる。自分を超越る価値や理想に触れていくことが、未来の社会をつくる生徒たちが育つうえで大切だと思う。

対談をとおして、養老さんは次のように言います。

「自分の人生は自分のもの」ではない 個人主義の弊害も子どもの問題を考える上で重要です。戦後日本の強い傾向で、いわゆる個人主義が広がった。「自分の人生は自分のものである」という考えが蔓延しました。それで何が悪いのかと思うかもしれませんが、この考え方は子どもの自殺と大いに関係があると思うのです。「なぜ、死んではいけないんですか?」と質問する子どもは、暗黙のうちに、自分の人生は自分のものなんだから、自分の体をどうしようと勝手だろうと考えています。これはとんでもないことです。自分の人生は自分のものなんかでは、まったくくない。もちろん、自分の人生は他人のものでも国家のものでもありませんが、自分ひとりのものであるという考え方からは、生きる意味なんて出てこないのです。

人生の意味は外部にある V・E・フランクルというアウシュビッツ強制収容所に収容された体験を持つ心理学者は、「意味は外部にある」という言葉を残しています。「人生の意味は自分だけで完結するものではなく、常に周囲の人、社会との関係から生まれる」ということです。個人主義の広がりによって、農村共同体やその代替物だった会社という共同体すら崩壊してしまった現代の日本では、生きる意味を見いだすことがとても難しくなっています。いや、会社という共同体は存続しているじゃないかと言う人がいるかもしれませんが、しかし、本物の共同体はメンバーの首を切ったりはしません。ワークシェアをせずに平然とリストラをする日本企業は、もはや共同体とは呼べないのです。子どもたちは、共同体が崩壊してしまった社会の中で、生きる意味を見失ってしまっている。共同体には共通の目的が必要で、以前であれば「食べていくこと」だった。農作業は皆で協力しないとできなかったが、いま機械を使えば一人でできてしまう。



都市化と少子化 「児童虐待社会」がどうして出現したかといえば、「都市化」と深い関係がある。都市化とは人間が頭の中で考えたことを外に出して街をつくるということ。「脳化」と言い換えてもいい。都市では切符を買って電車に乗れば、目的地に着くでしょ。「ああすれば、こうなる」という考えでつくられているのが都市なのです。しかし、自然の中ではそうはいきません。森の中で迷ってしまえば、どこにたどり着くかわからないのです。先進国の都市ではどこもかしこも出生率が下がって、少子化が起こっている。なぜかといえば、都市は頭でつくられているのに対して、子どもは自然だからです。ひとりで生まれてきて親の思うようにはなりません。だから、都会では子供を排除することが

暗黙の了解になっているのです。実際、丸の内や新宿副都心のビル街を歩いている子供なんて、ほとんどいないでしょ。都会にとって、子供は厄介で邪魔な存在。それゆえに、子どもを産む事を控えたり、産んでも急いで大人にしようと教育したり管理したりする。こうしたことが少子化の根本原因であり児童虐待社会の実装です。何もかも手に入るわけではないけれども、生きているだけで満足できる。そんな状況を、生まれてくる子どもたちに対して作ってあげないといけないでしょう。何も難しいことはありません。親が子どもに対して「あなたたちが元気に飛び跳ねていてくれればいい」とさえ、願えばよいのです。僕は、都市化した社会、脳化した社会の先を切り開いていくのは、泥だらけになって野山をかけ回っている子どもたちだと思っているのです。

内浦公民館講座のお知らせ

月	日	曜日	講座内容
5	17	火	元気あっぷ生き活き倶楽部 (13:30~15:00) 体力測定
	24	火	らくらく運動教室 (13:30~15:00) 日引ふれあい広場
	31	火	元気あっぷ生き活き倶楽部 (13:30~15:00) 普通救命講習会 (9:00~12:00)
6	4	土	「四季の過ごし方~夏~」教室 (13:30~15:00) *チラシをご覧になりお申込みください。
	未定		スマホの使い方教室を開催予定です。(詳細決まり次第お知らせします)

~R4 年度の内浦再発見Ⅱの取り組み

人口減少・少子化・環境変化、そしてコロナ化・他国では戦争と先が見通しにくい昨今ですが、私たちはどうしていけばいいのでしょうか？それぞれが思っていることを皆で共有して内浦地区の全体で考えていけるといいと思います。今年度は、わが地域で充実して幸福に暮らしていける持続可能な内浦地域を目指して各地区で活動しておられる団体や人の活動や地域づくりの様子を伝えていきます。

【お願い】新型コロナウイルス感染症防止の為、受講時には原則としてマスクの着用、アルコールによる手指の消毒をお願いします。また、受講前には必ずご自宅での検温をお願いいたします。(体温が37.5℃以上や体調が悪い場合はご遠慮ください)

*ご利用においては、定期的な施設内の換気にご協力ください。